

黒羽芭蕉の館だより ⑭

講座「近世の版本で読む『おくのほそ道』陸奥横断篇」
受講者募集

当館では、平成22年度以降、松尾芭蕉の傑作『おくのほそ道』を、江戸時代に出版された版本でじっくりと読んでいく講座を開講しています。

1年目は全10回講座で、「序章」から「殺生石・遊行柳」まで読み、昨年度は「陸奥篇」と題して、「白河の関」から「石の巻」まで読み進めてきました(全15回)。

それを受け、本年度は「陸奥横断篇」と題して、次のような日程・内容で『おくのほそ道』を読んでいきますと思います。以前から続いて受講



平成22年度の講座の様子

されている方はもちろん、初めての方も大歓迎ですので、お気軽にお問い合わせ、お申し込みください。なお、本講座は「とちぎ県民カレッジ登録講座」となっています。

●日時および内容

- ① 4月28日 石の巻〜平泉
- ② 5月12日 平泉
- ③ 6月16日 平泉〜尿前の関
- ④ 7月21日 尿前の関
- ⑤ 8月4日 尾花沢〜立石寺
- ⑥ 9月1日 立石寺〜大石田
- ⑦ 10月6日 最上川〜羽黒山
- ⑧ 11月17日 羽黒山
- ⑨ 12月1日 月山・湯殿山
- ⑩ 平成25年1月5日 月山・湯殿山
- ⑪ 2月2日 月山・湯殿山〜酒田・象潟
- ⑫ 3月2日 象潟

※毎回土曜日、午後1時30分〜3時30分

- 場 所 黒羽芭蕉の館 研修室
- 講 師 新井敦史(当館学芸員)
- 定 員 40名(定員になり次第締め切り)
- 受講料 無料
- 持参するもの 鉛筆、ノート
- 申込方法 4月5日(木)から27日(金)までに、黒羽芭蕉の館の窓口へ直接または電話・ファクスにより申し込み。

■問い合わせ 黒羽芭蕉の館

TEL (54) 4151
FAX (54) 4188

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 ③〇

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介しします。

那須野が原ハーモニーホール一番南にギャラリー棟があります。この南側に位置する芝生広場のほぼ中央にある彫刻です。

女性の身体をかたどった作品であることがわかります。仰向けに横たわった状態ですが、頭や手足



うつせみの人

なかね えいじ 中根 栄二 2001年

といった細かな部分は表現されていません。

「人間の一生も自然とくらべると頼りなく、空しくはかないものだ。そんな雄大な自然の時間のなかで人しれず消えてゆく自分の形として、この地に刻みたい」

この作品に添えられた作者のことばです。

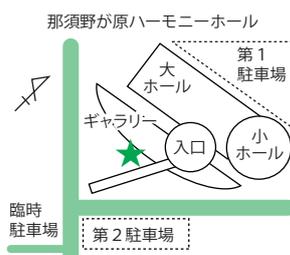
女性の身体の美しさは、よく絵画や彫刻の素材として取り上げられ、作品としてたくさん目にすることができます。その美しさも自然に対しては「空しくはかない」もので「人しれず消えてゆく」と作者は見えています。そういう存在だからこそ、美しいものは美しいものとして石に刻み残したいと考えたのでしょうか。

作者は、1974年愛知県生まれの中根栄二氏。1993年に岩手大学教育学部特設美術科を卒業し、1996年に愛知県立芸術大学大学院美術研究科を卒業。国画会準会員。現在は、奥様でインスタレーション(芸術的空間)作家の中根理(あや)さんとともに、愛知県内で2人展を開催したり、町並みや農村を活用した展覧会などに参加したりしています。



中根 栄二 氏

設置場所案内図(★印)



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718